

## 2024年度事業計画

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

### 1. 基本方針

2024年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から77年目を迎えます。

新年度も当協会は、大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、永年活動を続けてきた大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、大阪フィルハーモニー会館を市民の音楽活動の拠点として、貸出を通じた地域の音楽文化の普及・振興、また、小中学生との共演・指導に貢献してまいります。

これらの事業推進にあたりましては、新型コロナ禍からの回復に向け、依頼公演数、公演入場者数、各種会員数、及び会館利用者数等の増強に取り組む一方、2023年末日本芸術文化振興会から採択されました「新たなオーケストラ支援事業」の助成金を活用し、財政的にも安定した協会運営を目指してまいります。

楽団運営は、7年目に入る尾高忠明音楽監督の下、定期演奏会をはじめ様々な自主演奏会を通じて、芸術性の高い曲目を採り上げ、持ち味であるダイナミックな演奏に加え、緻密なアンサンブル能力を兼ね備えた新たな「大フィル・サウンド」を磨き上げるとともに、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等にも努めてまいります。

### 2. 事業基盤の維持・拡大に向けた2024年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の再構築と拡大を進めてまいります。

(1) 自立に向けた収益基盤の再構築

尾高監督の就任以来、主要レパートリーのブラッシュ・アップを目的に、これまでベートーヴェンをはじめとする様々な作曲家の作品に焦点を当てたシリーズや、フランス音楽の名曲セレクション等に取り組んでまいりましたが、2024年度は生誕200年を迎えるブルックナーを採り上げます。自主公演は41公演となる見込みで、文化庁学校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、年間57公演を見込み、合計の年間公演数は、100公演の計画となっております。

1. 自 主 公 演 ( 4 1 公 演 )		
公 演 名	会 場	公演数
定期演奏会	フェスティバルホール	20
東京定期演奏会	サントリーホール	1
シンフォニストの理想を求めて	ザ・シンフォニーホール	3
マチネ・シンフォニー Vol. 31・32	ザ・シンフォニーホール	2
ソワレ・シンフォニー Vol. 23・24	ザ・シンフォニーホール	2
住友生命いずみホール特別演奏会	住友生命いずみホール	1
親子のためのオーケストラ体験教室	大阪フィルハーモニー会館	4
神戸特別演奏会	神戸国際会館こくさいホール	1
ドラゴンクエスト・コンサート	びわ湖ホール	1
東京特別演奏会	オペラシティ	1
3大交響曲のタベ	フェスティバルホール	1
京都特別演奏会	京都コンサートホール	1
第9シンフォニーのタベ	フェスティバルホール	2
新春名曲コンサート	フェスティバルホール	1
2. 依 頼 公 演 ( 5 9 公 演 )		
企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演		57公演
大阪クラシック(有料・オーケストラ公演)		2公演

定期演奏会は演奏技術と音楽性に磨きをかけ、コアなクラシックファンをはじめ、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の実力をアピールするシリーズとなっています。2024年度も古典から近現代まで幅広い作品に挑戦し、尾

高監督の下、世界レベルのオーケストラを目指して、伝統の「大フィル・サウンド」を更に進化／深化させていきたいと考えております。

共演アーティストも、シャルル・デュトワ、レナード・スラットキンといった世界的指揮者を再招聘する一方、新たに、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席クラリネット奏者 ダニエル・オッテンザマー氏を アーティスト・イン・レジデンスとして契約し、世界最高峰のオーケストラ・メンバーとパートナー・シップを結ぶことで、活動の視野を世界に広げていきます。

また東京定期演奏会では、大阪フィルの代名詞とも言えるブルックナーの交響曲から「第4番」を取り上げ、進化をつづける「尾高&大フィル」の実力をしっかりとアピールしてまいります。

また、「名曲シリーズ」の一環として開催しております「マチネ・シンフォニー」や「ソワレ・シンフォニー」では、神尾真由子（ヴァイオリン）、福間洸太郎（ピアノ）、小曾根真（ピアノ）といった人気アーティストを起用し、「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」では、初めてオーケストラを生で聴く方が「オーケストラって楽しい、面白い」と興味を抱くことのできる作品を提供することで、幅広い観客層に音楽の素晴らしさをお届けできると考えております。尚、2017年度から取り組んでおりますゲーム音楽シリーズ「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましても、ゴールドウイークにびわ湖ホールで開催し、クラシックファンのみならず、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしてまいりたいと考えております。

以上の通り自主演奏会をより充実させることによってファン層の拡大を図るとともに、期中においても依頼公演の受注に努力し収益基盤の再構築を図ってまいります。

会費収入の増収に向けては、2015年度より設置したパトロネージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーに効果的に活動いただいている他、法人会員についてはコロナ禍の厳しい環境の下で様々なご協力を頂きながら、新規の会員獲得活動を続けてまいります。また、寄付金につきましては、遺贈案件等の捕捉はもちろんのこと、演奏会や会報での寄付金募集チラシの折り込み等を通じた地道な努力を続け、ご支援の輪を広げてまいりたいと考えております。

## (2) オーケストラの体制整備

2025年3月まで契約期間を延長した3代目音楽監督の尾高忠明マエストロには引き続き公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括していただいております。

楽団員の体制については、2024年2月末現在61名のところ、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、ソロ・コンサートマスターの崔文洙氏と、コンサートマスターの須山暢大氏の2名と契約を継続いたします。

### (3) 大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去18回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また5万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」は、新型コロナ禍により見合わせてきた無料公演を昨年度に再開いたしました。

大阪の都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化に資するものでもあり、今年度も9月に、在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で多くの方々に音楽を楽しんでいただけるスタイルで開催すべく、実行委員会において協議・調整を行ってまいり所存です。

また、次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、定期演奏会においてフェスティバルホールの3階席を学生席として25歳以下の学生向けに1,000円という極めて安価にて提供しております。また、「学生定期会員」制度により、学生の皆さまに定期演奏会以外の自主公演の割引制度等を利用していただくことを可能にしております。

さらに、社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生や様々な施設の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動も行っており、2024年度についても継続実施してまいります。

### 3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

弊協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600㎡)・市民スタジオ(90㎡1室、40㎡2室)を、今年度も、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を行うことによって地域の音楽普及・文化振興に貢献し

てまいります。

なお、竣工後33年を迎える大阪フィルハーモニー会館建物については、助成金を最大限活用して、安全かつ快適にご利用いただけるよう各種修繕を予定しております。

#### 4. 2024年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

##### (1) 外部企業・団体との連携による公演来場者の増加とファンづくり

これまでも会員企業の福利厚生部門を通じて社内サイト等に社員向け公演情報の掲載を依頼し、来場者の増加を推進してまいりましたが、引き続き2024年度も、提携対象法人の更なる拡大、内容の充実を図り新たなファンづくりに取り組む計画です。

また、企業のCSR活動やSDGsへの参画を通じて、社会貢献並びに来場者確保も積極的に進めてまいります。

##### (2) 「2025大阪・関西万博」への取り組み

長年大阪で演奏活動を続けて来たオーケストラ（芸術団体）として、地元大阪で開催される「2025大阪・関西万博」の成功に向けて、他の在阪オーケストラ（4オケ）と協力して「広報・プロモーション」活動へ参加する他、機運醸成に向けて東京での演奏会の開催を企画しております。

以上

2024年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）  
（2024年4月1日～2025年3月31日）

2024年3月5日

（単位：円）

	2024年度予算	2023年度予算	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	184,600,000	192,200,000	▲ 7,600,000
正会員受取会費	177,400,000	173,000,000	4,400,000
賛助会員受取会費	7,200,000	19,200,000	▲ 12,000,000
事業収益	583,815,000	524,154,000	59,661,000
公演収益	275,600,000	248,286,000	27,314,000
広告料収益	42,000,000	40,000,000	2,000,000
入場料収益	200,603,000	199,650,000	953,000
使用料収益	12,000,000	12,000,000	0
その他事業収益	53,612,000	24,218,000	29,394,000
受取補助金等	214,000,000	140,550,000	73,450,000
公的補助金収入	214,000,000	140,550,000	73,450,000
寄附金収入	35,000,000	41,000,000	▲ 6,000,000
一般寄附金収入	35,000,000	41,000,000	▲ 6,000,000
雑収益	3,000,000	2,000,000	1,000,000
雑収益	3,000,000	2,000,000	1,000,000
経常収益計	1,020,415,000	899,904,000	120,511,000
(2) 経常費用			
事業費	980,445,783	949,569,305	30,876,478
役員報酬	1,193,400	1,193,400	0
給料手当	368,928,000	351,955,325	16,972,675
賞与	12,510,000	5,367,000	7,143,000
法定福利費	57,210,000	56,842,500	367,500
旅費交通費	73,466,904	67,236,730	6,230,174
出演費	179,020,000	200,957,000	△ 21,937,000
音楽費	8,241,000	7,285,000	956,000
文芸費	3,831,000	3,196,000	635,000
謝礼金	1,257,000	2,069,000	△ 812,000
会場費	79,011,000	77,316,000	1,695,000
楽器運搬費	8,924,000	8,446,000	478,000
外注費	5,000,000	5,000,000	0
宣伝費	17,496,000	8,606,000	8,890,000
印刷製本費	15,783,000	18,433,000	△ 2,650,000
支払手数料	11,902,000	11,689,000	213,000
消耗品費	2,539,500	2,541,750	△ 2,250
修繕費	6,178,000	6,178,000	0
貸借料	3,663,200	2,108,410	1,554,790
保険料	1,087,800	1,047,800	40,000
交際費	972,000	972,000	0
通信運搬費	3,938,856	3,822,639	116,217
光熱水費	9,432,740	9,396,175	36,565
委託費	7,707,280	7,681,234	26,046
減価償却費	23,638,870	23,615,480	23,390
雑費	22,070,032	23,883,833	△ 1,813,801
租税公課	33,497,740	32,601,669	896,071
修繕引当金繰入額	4,678,000	4,678,000	0
賞与引当金繰入額	0	0	0
退職給付費用	17,268,461	5,450,360	11,818,101
管理費	13,856,729	12,857,705	999,024
役員報酬	795,600	795,600	0
給料手当	2,592,000	2,248,675	343,325
賞与	90,000	33,000	57,000
法定福利費	390,000	357,500	32,500
旅費交通費	1,461,096	1,288,270	172,826
通信運搬費	362,144	347,361	14,783
印刷製本費	0	0	0
支払手数料	0	0	0
消耗品費	210,500	208,250	2,250
修繕費	322,000	322,000	0
貸借料	336,800	191,590	145,210
保険料	32,200	32,200	0
交際費	108,000	108,000	0
支払利息	1,000,000	1,000,000	0
光熱水費	867,260	853,825	13,435
委託費	705,720	700,766	4,954
減価償却費	1,627,130	1,625,520	1,610
雑費	1,939,968	2,082,167	△ 142,199
租税公課	499,760	552,631	△ 52,871
修繕引当金繰入額	322,000	322,000	0
賞与引当金繰入額	0	0	0
退職給付費用	194,551	▲ 211,650	406,201
経常費用計	994,302,512	962,427,010	31,875,502
当期経常増減額	26,112,488	▲ 62,523,010	88,635,498
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	26,112,488	▲ 62,523,010	88,635,498
一般正味財産期首残高	527,142,016	497,498,799	29,643,217
一般正味財産期末残高	553,254,504	434,975,789	118,278,715
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	553,254,504	434,975,789	118,278,715

（注1）一般正味財産期首残高に関して、2024年度予算は2023年度決算見込み値を、2023年度予算は2022年度決算値を使用

（注2）短期借入限度枠は300百万円とする

2024年度 収支予算書 内訳表 (正味財産増減計算書 内訳表)  
(2024年4月1日 ~ 2025年3月31日)

2024年3月5日

(単位:円)

	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	184,600,000	0	0	184,600,000
正会員受取会費	177,400,000	0	0	177,400,000
賛助会員受取会費	7,200,000	0	0	7,200,000
事業収益	583,815,000	0	0	583,815,000
公債料収益	275,600,000	0	0	275,600,000
広告料収益	42,000,000	0	0	42,000,000
入場料収益	200,603,000	0	0	200,603,000
使用料収益	12,000,000	0	0	12,000,000
その他事業収益	53,612,000	0	0	53,612,000
受取補助金等	214,000,000	0	0	214,000,000
公的補助金収入	214,000,000	0	0	214,000,000
寄附金収入	20,000,000	0	15,000,000	35,000,000
一般寄付金収入	20,000,000	0	15,000,000	35,000,000
雑収益	3,000,000	0	0	3,000,000
雑収益	3,000,000	0	0	3,000,000
経常収益計	1,005,415,000	0	15,000,000	1,020,415,000
(2) 経常費用				
事業費	978,954,713	1,491,070	0	980,445,783
役員報酬	1,193,400			1,193,400
給料手当	368,906,400	21,600		368,928,000
賞与	12,509,250	750		12,510,000
法定福利費	57,206,750	3,250		57,210,000
旅費交通費	73,459,411	7,493		73,466,904
出張費	179,020,000			179,020,000
音楽費	8,241,000			8,241,000
文芸費	3,831,000			3,831,000
諸謝金	1,257,000			1,257,000
会場費	79,011,000			79,011,000
楽器運搬費	8,924,000			8,924,000
外注費	5,000,000			5,000,000
宣伝費	17,496,000			17,496,000
印刷製本費	15,783,000			15,783,000
支払手数料	11,902,000			11,902,000
消耗品費	2,538,250	1,250		2,539,500
修繕費	6,003,500	174,500		6,178,000
賃借料	3,661,200	2,000		3,663,200
保険料	1,070,350	17,450		1,087,800
交際費	972,000			972,000
通信運搬費	3,936,705	2,151		3,938,856
光熱水料費	9,427,590	5,150		9,432,740
委託費	7,521,353	185,927		7,707,280
減価償却費	22,757,087	881,783		23,638,870
雑費	22,058,512	11,520		22,070,032
租税公課	33,497,740			33,497,740
修繕引当金繰入額	4,503,500	174,500		4,678,000
賞与引当金繰入額				0
退職給付費用	17,266,715	1,746		17,268,461
管理費	0	0	13,856,729	13,856,729
役員報酬			795,600	795,600
給料手当			2,592,000	2,592,000
賞与			90,000	90,000
法定福利費			390,000	390,000
旅費交通費			1,461,096	1,461,096
通信運搬費			362,144	362,144
印刷製本費				0
支払手数料				0
消耗品費			210,500	210,500
修繕費			322,000	322,000
賃借料			336,800	336,800
保険料			32,200	32,200
交際費			108,000	108,000
支払利息			1,000,000	1,000,000
光熱水料費			867,260	867,260
委託費			705,720	705,720
減価償却費			1,627,130	1,627,130
雑費			1,939,968	1,939,968
租税公課			499,760	499,760
修繕引当金繰入額			322,000	322,000
賞与引当金繰入額				0
退職給付費用			194,551	194,551
経常費用計	978,954,713	1,491,070	13,856,729	994,302,512
当期経常増減額	26,460,287	▲ 1,491,070	1,143,271	26,112,488
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減	26,460,287	▲ 1,491,070	1,143,271	26,112,488
他会計振替額			0	0
当期一般正味財産増減額	26,460,287	▲ 1,491,070	1,143,271	26,112,488
一般正味財産期首残高	410,128,966	9,589,677	107,423,373	527,142,016
一般正味財産期末残高	436,589,253	8,098,607	108,566,644	553,254,504
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
<b>III. 正味財産期末残高</b>				
	436,589,253	8,098,607	108,566,644	553,254,504